



社員を「大切に」から黒字になる。「甘い」から赤字になる。

株式会社日本レーザー 代表取締役会長
近藤 宣之(著)
あさ出版 (2018/9) 1,400円

2018.11
税理士法人古田士会計
発表会プロジェクト
嶋田 知和

「社員を大切にしている会社ですが、甘やかす会社ではない」と言う著者が年月をかけて築き上げてきた「しくみ・しかけ」が多数紹介されています。

経営計画発表会 基調講演者特別号

【概要】

前著の「ありえないレベルで人を大切にしたら23年連続黒字になった」を以前にこのコーナーで取り上げました。本書では、続編として「実際にどうすればいいのか」という実践的なノウハウが「5つのしくみ、6つのしかけ」として具体的に紹介されています。

●5つのしくみ

「採用」「教育」「人事」「賃金」「評価」

●6つのしかけ

- ・CREDO (クレド) : 働き方の契約書
- ・就業規則・賃金規定・退職金規定
- ・嘱託雇用契約社員関連資料
- ・総合評価表
- ・給与通知書
- ・「今週の気づき」「今週の頑張り」

「理念と仕組みを大切にすれば、どんな会社でも人を大切に、利益を出す経営が可能になる」と著者は仮説を立て、日本レーザーで取り組んできた内容を細かく記述しています。古田士会計でも実際に取り入れている方法を本書でも紹介しております。例えば「挨拶」「社長室はつくらない」「社長が直接社員に会社の考え方や方針を伝える」「全社会議」「毎月の経営・財務データは完全公開」「障がい者雇用」などです。後半では「経営者が変わらない限り、会社は変わらない。逆に言えば社長が変われば会社は必ず変わる。社長が変わることが大切にしたい会社への第一歩です。」と、社長自身がまずはおこなうことへの後押しをしてくれます。ぜひ本書を読んで頂き、自分自身が変わるきっかけとしてください。

【紹介したいメッセージ、エピソード(本書から引用)】

- ・そもそも人が生きる喜びは何かという根本的な問題に立ち返ってみると、私は次の4つだと思います。
 - 1: 人から愛される喜び
 - 2: 周りから必要とされる喜び
 - 3: 周りのお役に立つ喜び
 - 4: その結果、周りから感謝される喜び
- ・びっくりしたのは、私の本の韓国語版を翻訳してくれた翻訳者の優秀な男性が「日本レーザーに入りたい」と履歴書をおくってきたことです。
- ・彼女が帰化すると告げた時、親戚、友人たちはみな大反対でした。(中略)
「日本レーザーはいい会社です。雇用を守ってくれる会社だから、日本レーザーで働く限りは、一生安心です」と言って、両親の理解を得られたのです。

【株式会社日本レーザーとは】

社員数約60名、年商40億前後の日本で最も古いレーザー機器を専門に輸入する商社で、創業50年を超える会社です。過去には「日本でいちばん大切にしたい会社」中小企業庁長官賞をはじめ「勇気ある経営大賞」(東京商工会議所)、「キャリア支援企業」厚生労働大臣賞、「ホワイト企業大賞」など、数々の賞を受賞しております。1994年、近藤宣之氏は親会社の日本電子から、当時債務超過に陥っていた子会社の日本レーザーに出向。社長就任後、1年目から黒字化し以降25年連続黒字、10年以上離職率ほぼゼロの経営を実践。2007年には日本初の「MEBO(役員、社員、嘱託社員が株主となり親会社から独立)」を行う。2018年3月から現職。



古田士会計の顧問先の皆様へメッセージ

「社員を大切にすることで本当に経営はうまくいくのか？」と半信半疑な経営者の皆様に「どんな会社でも人を大切に、利益を出す経営が可能になる」仕組みを本書で細かく記述しました。巻末資料にはわが社が実際に使用している人事制度、賃金規定、総合評価表等の実務資料を紹介しております。「人を大切に」経営計画書に共感いただく皆様にとって



参考になる内容となっておりますので、是非お読みください。当日、会場でお会いできますことを楽しみにしております。日本レーザー会長 近藤宣之

【10月18日 in 韓国ソウル】 300人規模で開催された「EconomyChosunGlobalConference」にて講演をおこなう近藤宣之氏

- ・会社は社員に生涯雇用を約束する。だから社員も業績を向上させるために全身全霊で会社に尽くして頑張る。
- ・だからいつも社員にこう言っています。『頼むよ。君たちが頼りなんだから』やはりリーダーはどこかで弱みをみせなければいけません。
- ・大切にしたい会社をつくるプロセスは、経営者自身が成長するプロセスでもあるのです。

という著者のストレートな言葉が胸に刺さり、経営計画発表会：2019年1月10日(木)当日も皆様の魂を熱くする、数多くの言葉是非ご期待ください。